

語学教室アーキ・ヴォイス、越で進出支援事業

中国語・韓国語教室の運営や翻訳事業を手掛けるアーキ・ヴォイス（東京都渋谷区）はホーチミン市に現地法人を設立し、月内にも日本企業の現地進出を支援する事業を開始する。売り上げ目標は明らかにしていない。

新会社の名称は「アーキ・ヴォイス・ベトナム」で、2月27日付で設立。資本金は非開示で、アーキ・ヴォイスが75%、提携先の現地企業が25%を出資する。人員は日本人駐在員1人を含む6人。

現地で市場調査を行い、日本から進出を検討している企業や、既に現地に進出済みの日系企業に情報を提供する。

一方、タイでも日本語新聞「バンコク週報」を発行するバンコク週報インターナショナル社に4月18日付で出資。バンコク事務所を同社内に移しており、やはり今

月中をめどに日本企業の進出支援事業を始める予定だ。

アーキ・ヴォイスはこれまで、提携先を通じてベトナムでインフラ関連の翻訳事業を展開するほか、現地での通訳手配などを手掛けてきた。日本国内外で100以上の言語の翻訳・通訳サービスを提供しているが、「ここ1～2年、ベトナム語とタイ語の引き合いが特に多くなっている」（荒木賢一社長）。調査関連の業務の依頼も出てきたことから、両国での進出支援事業の開始を決めた。

今後については「インドネシア語も問い合わせが多い」（荒木社長）として、同国での展開も視野に入れる。また、このところ急速に注目が高まっているミャンマーにも進出したい考えだ。

同社は2003年設立で、資本金は3,000万円。海外では他に香港に現法、上海と独ハンブルクに事務所を構えており、翻訳・通訳サービスなどを提供している。